

北陸非鉄リサイクル商工業会 2期目の課題



竹中伸行会長に聞く

SDGsや脱炭素化の流れを受け金属リサイクルに追い風が吹く。しかし日本国内に目を向けると慢性化する発生薄や資源高による仕入れ単価の上昇で運転資金が増加するなどの課題に直面する。

コロナ禍で会長に就任して今年度2期目を迎えた北陸非鉄金属リサイクル商工業会の竹中伸行会長（竹中製作所社長）に取り組みや課題などを聞いた。

――会長就任からの2年間を振り返って。
「コロナ禍での会長就任で、初年度は会員の皆さまと顔を合わせる機会がほとんどなか

った。行動制限もあり、会員の皆さまと顔を合わさないまま2年間を過ごしてしまった。組合活動もできなかつた。行動制限が徐々に緩和されてきた2年目から恒例の新年会やゴルフコンペなどを開催

「今年4月の総会は懇親会は開催できが、恒例の温泉総会を見送った。6月4日全連（非鉄金属リサイクル全国連合会）の陸地区での総会を控えていたこともあり、泊を伴う総会は1回とどめた方が良いと判断した。ゴルフコンペは今年は例年通り（開催済み）と秋の

2春ペ判に宿え北イにはたたたた。
人のUSル・ス^ン開^ンつた。催は^ン禍でど^ン。
人、魏登壇^一51人出^一タ金属^一陸に來配して。

年前は大阪地区で「ユーバーサル・タジオ・ジャパン」催で書面決議が北陸地区での開催年ぶり。コロナ禍だけの方が北陸に来てくれるのか心配になつたが、総会はハリウッドの張田真社長が司席。そしてハリウッドの講演会に53人が親会には44人が

が今年に入りロシアをウクライナに侵攻ししたことや海外との金利差で円安が加速しておき、国内の非鉄金属価格の上昇が続いている。さらなる上昇の思惑買戻もありリスクラップの準備が難しい。価格高騰で仕入れのためのキャッシュ確保にも苦労する。富山地区に限つた話をすれば、工場稼動率

者がいりつは大変良いことだし廃業する。特に心配組合ではないが、産業の銅器部数社ずつ廃業があることなど不振と後繼者なつてゐる。500社うちが足元は1まで減つていて、

しゃる」とことだ。たる会社もあるが、地場関係で毎年業する会社にいた。仕事の者不足が重い。最盛期は60社程度あり、倒産らしいあつた。

うことで、使用するエネルギーを造る工程まで含めトータルとしてどれだけ環境に貢献しているのか把握していくことが必要だろう。一方ではリサイクル関係の規制も強化される傾向にある。そうなるとわれわれの負荷が一段と大きくなるため、それに対する対応も考えないといけない」

業界の追い風を好機に

せる機会が増えてきた。この間の景況感は行動制限による景気悪化を懸念したが、数ヵ月で荷動きは回復してきた。金属価格も値上がりするなど、景気自体はそれほど悪い状況ではなかった。

——2期目の抱負や活動など。

回開催したい。来期になるかも知れないが、コロナ禍以前のように工場見学会や講演会などの開催も検討していくべきだ。

——6月4日の全連総会について。

参考
「コロナ禍で資源価格が上昇傾向にあったが、業界が抱える課題は何か。」
となつた雨晴温泉機はないに宿泊してくれた方も30人いた。コロナ以前よりは少ないが、現状では大勢の方に参加していただけた」

率が明らかに落ちてはいるという状況ではなく、解体案件が減っており電設関係からのクラップ発生が悪い

——北陸地区の金属リサイクル業界でトップ交代含め事業承継が相次いでいる。

「当組合の中でも交代が続いている。後継

「追い風のチャンスをつかんでいかないといけない。リサイクルは地球環境に貢献する必要不可欠な産業だ。しかしどれだけ環境に貢献しているのか数値的な把握ができるいない。例えば新塊ではなくリサイクル原料を使

い影響が出てくることを懸念している。ウクライナ情勢の長期化も懸念材料だ。建材関係では木材を含めていろいろな材料が高騰しており様子見から新築着工件数が減少している。これらが他の産業にも影響を与えるかもしれない。先行きは不透明だ」（増田正則）

参加してくれた。会場となつた雨晴温泉磯は、なびに宿泊してくれた方も30人いた。コロナ以前よりは少ないが現状では大勢の方に参加していただけた

率が明らかに落ちてはいるという状況ではないが、解体案件が減つており電設関係からの「クラップ発生が悪い」――北陸地区の金属リサイクル業界でトツプ交代含め事業承継が目立っている。

「追い風のチャンスをつかんでいかないと
いけない。リサイクルは地球環境に貢献する
必要不可欠な産業だ。
しかしどれだけ環境に
貢献しているのか数値

い影響が出てくることを懸念している。ウクライナ情勢の長期化も懸念材料だ。建材関係では木材を含めていろいろな材料が高騰しており様子見から新築着工件数が減少している。これらが他の産

題は何か

相次いでいる
「当組合の中でも今
代が続いている。後継

的な把握ができる。いわゆる新塊ではない。例えば新塊ではなく、くりサイクル原料を使

業にも影響を及ぼしかね
しない。先行きは不透
明だ」（増田・正則）